

# せっかち 園長の ひといごと

2015、4、30

認定こども園あかみ幼稚園・メイプルキッズ 統括園長 中山昌樹

新制度元年・平成27年度が始まって約1か月・・・子どもたちの生活は、新入園のお子さんも含めて、本園の『遊び保育』が始められる状態になりつつあります。

あらためまして、子どもたちの入園、進級、おめでとうございます。

私・園長含めて、あかみ幼稚園・メイプルキッズ職員全員が、子どもたちそして保護者の皆さんとの

一期一会（いちごいちえ）の出会いを大切にす所存です。どうぞ、よろしくお願いいたします。

☆以下、ウィキペディアから 一期一会（いちごいちえ）とは、茶道に由来する日本のことわざ・四字熟語。茶会に臨む際には、その機会は二度と繰り返されることのない、一生に一度の出会いであるということを得て、亭主・客ともに互いに誠意を尽くす心構えを意味する。茶会に限らず、広く「あなたとこうして出会っているこの時間は、二度と巡っては来ないたった一度きりのものです。だから、この一瞬を大切に思い、今出来る最高のおもてなしをしましょう」という含意で用いられ、さらに「これからも何度でも会うことはあるだろうが、もしかしたら二度とは会えないかもしれないという覚悟で人には接しなさい」と戒める言葉。

## さて、本園の『遊び保育』・・・

保護者会総会でもお伝えしたので、ほとんどの方が お分かりのことと思うのですが、『遊び保育』は0～5歳の子どもの暮らしそのものであり、学びそのものでもあります。そしてそれは、下のように、子どもが大学生、そして大人に至るまでの、教育の土台 になります。

『遊び保育』 → アクティブ・ラーニング → 新・大学入試制度（2020年からスタート）  
 （乳幼児期の教育） （小・中・高の教育） （大学教育…暗記ではなく知識をどう使えるか）



↓ 続く

そして、

子どもは遊びたいから遊び、結果として大人の期待する様々な力や態度を、自分から身につける というのが、遊びのすごいところ。

ここでの 様々な力や態度とは・・・

意欲・やる気 やりたいことをやるための“がまん” 感情のコントロール 自信・自己肯定感  
 安定した気持ちで相手と向き合う 相手との関わりを理屈抜きに楽しむ（共振関係） 相手とお互いにやり取りする（心のキャッチボール）  
 自分の気持ちを伝える 相手の気持ちを受け入れる 思いやり 自分と相手の気持ちのギャップを埋める（問題解決 交渉 合意の形成など）  
 学びに向かう力（文字で何かを伝える 数や量の感覚 目的と手段の理解など） などなど

『遊び保育』は、あかみ幼稚園・メイプルキッズが 独自に（自分勝手に）行っているものではありません。

『遊び保育』は、「発達」（小学校以前の子どもが 何を どのように 学ぶのか）に基づき 国の指針に沿った教育なのです。



幼稚園教育要領（文科省）、保育所保育指針（厚労省）、認定こども園教育・保育要領（内閣府）

ところで、この時期に『遊び保育』が始められる状態になる というのは、本園が認定こども園だからなのです。全員が3歳になって入園する従来型の幼稚園だと、保育者は本当に大変だと思います。それは、昭和のころと違って、少子化などの要因から、友だちと遊んだ経験があまりないお子さんがたくさん一度に入園してくるからです。そこではおそらく、友だち同士で仲良く遊ぶところではないでしょう。またいろいろな理由から、オムツをしたお子さんが数多く3歳児入園する時代になりました。3歳児担当の保育者は、そこかしこでトラブル発生という状況の中、子どもたちのトイレの対応に追われることとなります。



本園は認定こども園なので、約 1/2 のお子さんが進級して3歳児クラスが出来上がります。1歳でも2歳でも同様ですが、新入園児が仲間に加わると、ほぼ同人数の進級児がとてもいい手本になってくれます。進級児は、園での暮らし方や遊び方がよくわかっているからです。ここでは、担任の保育者も助かりますが、なによりも、子どもたちにとって幸せな園生活がスタートしていると実感しています。

## さてここで、とてもうれしかった話を・・・

これは昨年度のことです。そのお母さんは、2人のお子さんの母親で、上のお子さんが卒園するタイミングで、下のお子さんをご自宅のすぐ近くの幼稚園に転園させる予定でいました。その理由は、お仕事も忙しく、佐野市の南部から北西部の本園までの移動がキビシイからということでした。ところが、上のお子さんがもうすぐ卒園という3月、下のお子さんの転園を取りやめることにしたのです・・・ご自宅のすぐ近くの幼稚園に、下のお子さんの入園料をすでに支払ってしまった段階で、です。

私は、そのお母さんの、転園をやめた経緯（いきさつ）と理由を聞いて、感動してしまいました。ここでそのエピソードを紹介し、この感動を、ぜひ、シェアしたいです！

昨年度も、年長のもり組では、「かっぱ」をめぐる様々な冒険やファンタジーが繰り広げられていました。



### 「かっぱ」をめぐる冒険・ファンタジーとは・・・

ずっと以前から、あかみ幼稚園で、年長組（5歳児）から小さい組に語り継がれているファンタジックな存在が「かっぱ」です。「かっぱ」を見ることができるのは、基本的に子どもだけです。でも、めったにいませんが、「かっぱ」が見えて「かっぱ」のことをよく知っている大人がいます。

### それが、太郎さん（かっぱ博士）です・・・

子どもたちは、毎年、園長を通じて太郎さんに会い、「かっぱ」のことを教えてもらいます。パワーの出る仲間ていろいろなことに挑戦した子どもたちは、太郎さんが作った紙芝居を見て、ピオトープにある丸い石が「かっぱ」の生き石で、自分たちは「かっぱ」にもう出会っていたのだと気付かされました。

### そして卒園直前のお別れ遠足では・・・

怪しくて険しい山登りに挑戦。頂上に着くと、そこには何と、太郎さんが待っていてくれて、子どもたちに「もっとパワーの出るおにぎり」をプレゼントしてくれたのです。

このような「かっぱ」との出会いは、このエピソードの 上のお子さんから下のお子さんに、そのつど話されます。

続く↓

たとえば、晩ごはんの準備をしている時に、兄弟2人が「かっぱ」の話をしているのが、お母さんの耳に届きます。

「きょうは『かっぱ』を探しに、怪しくて険しい山に行ったんだ！」

「・・・でも・・・、〇〇ちゃん（下のお子さん）は、〇〇幼稚園に行くから、『かっぱ』に会えないんだ・・・」

「山に登ったら、太郎さんがお弁当を持ってきてくれたんだ！」

「・・・あっ、〇〇ちゃんは、もり組にならないから、太郎さんにも会えないんだ・・・」



このような、母親を意識しないで交わされた、兄弟2人だけの会話を聞いて、このお母さんは思わず泣けてきてしまったそうです。

そして、ある意味大人の都合（お仕事という）で下のお子さんを転園させようとしたことに、罪悪感と反省の思いを感じたそうです。

そしてその時、すでに支払ってしまった下のお子さんの入園料は、もう惜しくないと思ったということです。

ケースバイケースなので、軽はずみに、すべてのご家庭が このお母さんのような判断をするべき、と言う気はありません。ですが、私は、よんどころない大人の都合・・・これはこれで、社会情勢が厳しい今の世の中、なかなか大変です・・・を、子どもが変えた、ということに、ただただ感動します。

そして、今、世の中全体が子どもの世界に無関心か、逆に、子どもの世界を過剰にコントロールしてしまっているかの、どちらかであるような気がしています。私が子どもに関わる仕事をしていて願うのは、子どもの世界に寄り添いつつ、子どもが大人の知らない自分の世界を作りつつある姿を応援するような大人の存在。

・・・ここで今回紹介した「かっぱ」のエピソードも、親からすると大人の知らない世界の話です。でもきっと、そこでは、「へー、お母さんはかっぱに会ったことないけど、すごいねー！」というような関わりがあったのではないのでしょうか？ そのような、子ども自身の世界を受け止めて応援してくれる大人の存在が、とても大切だと思うのです。